

1月度座談会

持妙法華問答抄

\* \* 地区

## 背景と大意

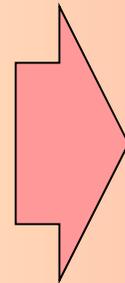
- 弘長3年 42歳 伊豆流罪赦免後
- 対告衆：不明
- 妙法による成仏を「問答」で御教示
- 現世利益に執着せず真の覚りを
- 「現世安穩・後生善処」を御教示
- 自ら唱え、人にも勧めるのが使命
- 自行化他の実践こそ無上の誉れ

# 娑婆即寂光

**寂光の都**: 仏の住む清浄国土  
**本覚の栖**: 仏の悟りの境地

仏国土以外は**苦しみの世界**  
**娑婆世界**: 苦悩の世界である

胸中に  
**覚りを開く**

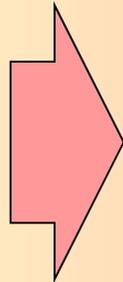


**現実での**  
**勝利喜び**

# 現世安穩・後生善処

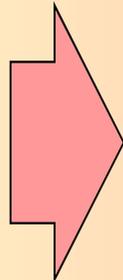
- 法華経の信受による功德
- 薬草喻品第5に説かれる

現世安穩



現実生活での  
勝利・希望・喜び

後生善処



未来永劫にわたる  
幸福境涯を築く

# 今生の名聞・後世の弄引

地位・肩書き・名声  
は**真の名誉**ではない

**今世のみ**  
は**かない**

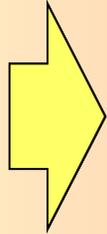
**妙法護持**

**未来永劫にわたる**  
**幸福境涯**を築く

**妙法を持つ**ことこそ  
**今世の栄誉、来世**を導く力

# 我も唱へ他をも勸ん

自行化他



広宣流布の運動

- 師と共に広布に生きる人生
- 使命に生きることが最極の歴史
- 真の「所願満足」の人生となる

広布の労苦こそ無上の誉れ

# 指導から

- 難や試練を悠々と乗り越える境涯
- 堂々と人生を勝利し行くのが「現世安穩」
- 法を説き人材を育てるのは人生最高の充実
- 折伏は何よりの金の思い出となる
- 真剣な対話、相手の心に真心を伝える

広布拡大の実践で  
幸福境涯を開き、勝利の道を